

世界を實現し、彼の世の眞實の救ひ、淨樂を信じ行する、それが如來教の信仰なのであります。

この惱める現代の人々にとつて救ひこそ、ほんとうにさし迫つた問題であります。覺醒した、ひとびとは、必然に眞の救ひを要求するのです、まことにこのとき、如來の救ひを宣べる法の庭に、集ふ人々の數は日を追々増して行くのであります。

今まで、世にも知られず、聞くに耳新しき隠れたる如來教の名は、やがて潮の如くに人々の胸を満し、日輪を仰ぐ如く一様に、如來教の救ひを仰ぐに至る事を信じます。

## 御案内

左の如く月次の「御日柄」や年中の「御供養」には「御説教」の御聴聞がありますから、ぜひ御参り下さいませ。

### ◎年中の「御供養」は

二月二日 教祖御誕生日  
三月十八日 金毘羅御正當  
四月十二日 三界萬靈回向  
五月二日 教祖御命日  
七月一日 覺善院御命日  
八月十一日 教祖立教日  
九月十二日 立教記念日  
十月廿三日 今釋迦御誕生  
十二月七日 臘八無師智講汗

### ◎月次「法會」と「御説教」

毎月二日 十一日  
十八日 廿三日  
外ニ 一月は一日より四日迄  
紀元節、天長節、明治節  
春秋二期の彼岸一週間

青柳のなびく心にならへ人

雨風しげき世には住めども

(三祖無明天排法師御談)

## 如來教の栞

## 如來教の信条

- 一、われ等は、このたび初めて示現し給へる、諸神以上、諸佛以上の如來を信じまらす、この世界を創り、われ等人類を創り、悉くの道理を辨へ、われ等を『おのが子』と愛で、限りなき『好き』ころにわれ等を遣はさんと心し給ふ唯一の能如來を信じ奉る。
- 一、われ等は教祖大悲如來尊こそ、このたびが初めての終りなる如來の唯一化身たることを信じ奉る。
- 一、われ等は、萬人の罪を一人して負ひ、萬人の苦しみを一人して苦しみ給ひし大悲如來尊の救ひを信じ奉る。
- 一、われ等は、罪の世に安堵なく、利口才覺、自方の工夫に救ひなく、救ひは、ただ如來より來るを信じ奉る。
- 一、われ等は、救ひの慈悲を心とし、人をはぐくみ、人を愛で、如來に抱かれ、此の世を渡り、あの世までの救ひを望み、信じ奉る。

## 如來教とは

如來教とは、いまだ一般には知られて居らぬ、新しい宗教の名稱であります、皆様にもさだめし、耳あらたなることであらうと思ふのであります、けれども、これは今こゝに偶然に出來たものでは決してないのであります、そもそも、この世界も、ひとびとも、宇宙の萬象は、はじめに如來が拵へおかれたもの、如來は『悉くの道理を御存知』の全知であり一切をみそなはず攝理の如來にして、世界を、人類を、私を、救はねばやまぬ慈悲、愛心の如來なのです、かつて如來は、釋尊を世につかはされました、諸佛、諸神をつかはされました、救ひを實現させんがために！

それなのに、人は罪に沈み、世は悪のみ満ち、はびこつて居ります。罪の世、亡びゆく人の世を、ながめおはす如來の愛心は、いよゝ救ひに問へ、問へて居られるのです。

その救に悶ゆる如來の愛心を天啓し、この世に救ひを全うしたる救主、化身の如來が教祖一尊如來であります。

教祖一尊如來は、今から百七十二年前(紀元二千四百十六年)(西紀一七五六年)寶曆六年西曆二月二日、尾張の國、熱田の宮のほとり、氏もなき農夫の家に、お生れになつたのです、そして、『萬人の罪を今、ひとりして負ふて居るのだ、みんなのくるしみを今、ひとりして苦しむのだ』と宣べたまひつつ、文政九年西曆五月二日の未明、まさに太陽ののぼらんとする頃、七十一年の御生涯を圓かに終へて、この世を去り給ふまで眞實の如來の救ひを世に齎して下されたのです、『始めにして、終り』なる唯一の如來の御化身であつたのです、この、世に替るべきなき、尊い如來の御金言は、まことにまことに幸にも、後々の人々を救ふ爲に、記されて、聖典となり完全に傳つて居ります。

その教旨を奉じ、如來の愛を心とし、人を愛し世を愛し、この土に、善の世界、美の